（別紙様式２－２）

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和４年度）

１　学校の概要

⑴　学校名　善通寺市立西中学校

⑵　所在地　香川県善通寺市文京町四丁目1番1号

⑶　学年別児童生徒数及び学級数、教員数（令和４年４月１日現在）

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
3学級 102名	3学級 95名	3学級 93名	3学級 11名	301名	27名

２　研究主題等

⑴　研究主題　　互いに支え合い　高め合い　生き方についての考えを深める道徳教育
～道徳的諸価値について「考え、議論する」授業づくりと振り返り～

⑵　研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「互いに支え合い　高め合いながら　課題の解決に努める生徒」のもと、日々の学校生活や学校行事で得られる協働感及び達成感が生徒の成長につながると共通理解し、互いを認め合う仲間づくりに取り組んでいる。本校は平成３０年度～令和元年度、令和３年度～今年度にかけて道徳教育地域支援委託事業の指定を受け、継続して道徳教育の推進を行っている。道徳の授業では「一人一人が、道徳的価値のもと、自ら感じ、考え、他者と対話し、協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力」を育てることが大切となる。これまでの道徳の現状として、「授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなど、型にはまったものになりがち」「学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の授業の受け方が消極的になる」「振り返りは授業や題材の感想に終始し、これからの自己につながるものにはならない」といったことが見られた。今までの道徳の指導から、生徒が「考え、議論する」道徳への質的な変換を図るための実践を、学校をあげて行ってきた。

また、校内指導体制の見直しによる、授業及び教育活動全体を通じた道徳教育の更なる推進により、多様な体験を積み重ね、道徳的価値を基に自己を見つめ、互いの考えを交流し合うことにより、人としての生き方について、多面的・多角的に考えさせる指導方法を模索し、本校の教育目標を実現したいと考え、本研究主題を設定した。

⑶　研究内容及び方法

①　道徳教育の充実を促す指導体制

ア　３プロジェクト（教材・連携・環境）による指導体制の充実（全教師で取り組む姿勢）

イ　教科を横断する全体計画、年間計画、別葉の作成・実行

ウ　道徳教育に関する校内研修・指導案検討会の実施（授業力向上）

②　道徳的諸価値について多面的・多角的に考えさせる授業づくり

ア　道徳的実践力を高める教科横断的な学習（各教科の指導の中に見える道徳性の賞賛）

イ　中心発問の改善（時間・対象・条件・本質軸を変えた発問と問い返し）

ウ　振り返りの充実（内省的思考へと導く３観点の提示、共有できる場の設定）

③　家庭・地域との連携・協力

ア　道徳通信の発行（家庭や地域への情報発信：月１回程度）

イ　地域とつながる道徳（地域とつながる新しいボランティアの確立・保護者参加型の授業の実施）

④　道徳に関する支持的風土づくり

ア　生徒の実態に合った朝道徳の充実と共有環境の整備

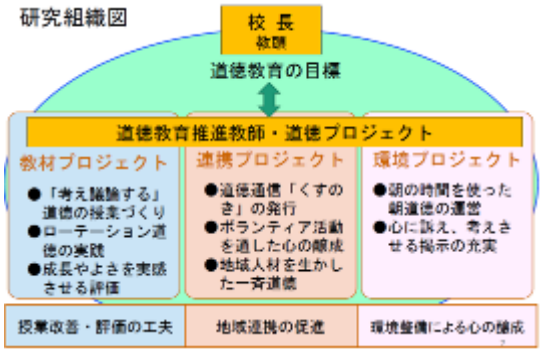
イ　道徳的価値を深める掲示の作成

３　研究実践

①　道徳教育の充実を促す指導体制

ア　３プロジェクト（教材・連携・環境）による指導体制の充実（チームで取り組む姿勢）

研究組織図



研究を推進する上で、校内体制は非常に重要である。校長の教育方針の下、道徳教育推進教師を中心に、全教師がチームとして取り組める体制づくりこそ、すべての出発点である。そこで、本校では、全教師が、３つのプロジェクトに所属し、研究・実践を進め、更に深化させたいと考えた。

１つ目は、「考え議論する」授業づくり、ローテーション道徳、評価に関することなどを担当する「教材プロジェクト」である。２つ目は、道徳通信の発行や地域ボランティアの中核となる役割を果たす「連携プロジェクト」。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け実施に至っていないが、例年は、地域の人材を生かした道徳として、ゲストティーチャーを招いた全校道徳も行っている。３つ目は、朝の時間を使った朝道徳の運営や、生徒の心に訴える掲示などを担当する「環境プロジェクト」である。それぞれのプロジェクトが、「授業改善・評価の工夫」や「地域連携」、「環境整備による心の醸成」という役割を担う。そして、それぞれが相互に関わり合って、本校の道徳教育の目標達成に向けて取り組む。また、各学年団の教師がそれぞれのプロジェクトに分担して所属することで、学年を越えて連携を深め、円滑な運営ができると考えた。

イ　教科を横断する全体計画、年間計画、別葉の作成

学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するためには、校長の方針のもと、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開していくことが大切である。道徳教育全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を総合的に示したものであり、道徳の授業等を充実させ、円滑な教育活動の実践のために全教師への周知が必要である。

また、学校・地域の特色や実情を考慮して別葉を作成することで、道徳科の授業と各教科や特別活動等との関わりを具現化し、全体計画を具体的な指導に生かすことができる。

道徳と教科等との関連　１年　年間カリキュラム

教科他／月		4月	5月
道　徳 年間35時間 週1時間		1「朝市の『おはようございます』」	4「いじめに当たるのはどれだろう」
	内容項目	B-(7) 礼儀	B-(9) 相互理解、寛容
	特質	随想、知見	生活、知見
	関連	英語、学級活動、入学式、対面式	学級活動
		2「選手に選ばれて」	「模範者でいいのか」
	内容項目	C-(10) 遵法精神、公徳心	A-(1) 自主、自律、自由と責任
	特質	生活、英語	生活、英語
	関連	保健体育、学級活動、対面式 生徒会活動	学級活動
		3「自分の性格が大嫌い！」	「ふたつの心」
	内容項目	A-(3) 向上心、個性の伸長	＊複数内容項目
	特質	論説、知見	生活、英語

【別葉】東京書籍の別葉作成ツールを使用して作成

ウ　道徳教育に関する校内研修の実施（授業力向上）

本校は継続して道徳教育の充実を図る中で、全教師の道徳教育に対する意識を高めるために様々な取組を実践してきている。研究授業に向けての授業づくりにおいては、担任やプロジェクトに属している教師以外も参加して指導案検討会を行った。本校では平成３０年度から学年の全教師によるローテーション道徳を行っている。ローテーションに沿って担当になった教師が道徳の指導案を作成し、各クラスを回りながらその

指導案の授業を行う、ローテーション道徳の方法を取ってきた。メリットとして、教師は十分な授業準備ができること、同一教材での授業の積み重ねにより教材研究が深まること、生徒は様々な教師の授業を受けることができることがあげられる。教材研究は授業を支える大きな要素であるが、指導案検討会やローテーション道徳を行うことで、担任や授業担当者に限らず全教師が教材研究を進めることができた。道徳教育地域支援委託事業を受けている年は、研究授業のあとには、香川大学や県教育委員会義務教育課の主任指導主事にご指導をいただき、学習活動や中心発問の在り方について研修を重ねた。

また、指導案検討会や授業への参観を計画・実施することで、多くの教師が多面的に生徒を評価したり、じっくりと生徒の見取りができたりするなど、評価の面でもメリットがあったと考える。その他、研究大会の研修内容の周知はもちろん、朝道徳の資料作成のローテーション化などにより、全教師で道徳教育に関して様々なアンテナを張り、考え、アイデアを出し合う体制が整ってきたと考える。

【研究授業後の検討会の様子】

【学年の垣根を越えた指導案検討会の様子】

② 道徳的諸価値について多面的・多角的に考えさせる授業づくり

ア 道徳的実践力を高める教科横断的な学習（各教科の指導の中に見える道徳性の賞賛）

前述、研究主題設定の理由の通り、本校では、生徒の自己肯定感は高まりが見られるが、道徳の授業以外で生徒自身が、道徳性を身に付けられたと実感できていないという実態がある。道徳性は道徳の授業でのみ身に付くものではない。学校の教育活動全体を通じて養われるものである。中央教育審議会答申にも、各教科で育成される「学びに向かう力、人間性等」について、『道徳性の育成は、「学びに向かう力、人間性」に深く関わる』と示されている。また、各教科の学習指導要領の目標の中には、「楽しさやよさを生活や学習に生かそうとする態度を養う」とも示されている。私達教職員には、生徒に楽しさやよさが生活や生き方に生かせるよう実感できる授業づくりがもとめられている。

本校では、私達教職員が楽しさやよさを実感できる授業を行うことで、生徒も自ら持っている道徳性をより発揮しやすくなると捉え、今年度は、生徒が道徳の時間で身に付けた道徳性を、各教科の授業で言動として発揮している姿を積極的に称賛することで、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳の授業以外の各教科の授業においても、道徳的実践力を育成したいと考えた。

【生徒が各教科の授業の中で道徳性を発揮している様子のイメージ】

「道徳性の発揮」と言っても、難しいことはなく、普段の授業の中で生徒が見せる学習への様々な意欲的な姿勢がそれにあたる。その姿を積極的に教師が認め、称賛することで、道徳的価値の自覚を促し、道徳の授業以外の各教科の授業でも道徳的実践力を育成したいと実践した。

中学校学習指導要領(平成２９年告示) 解説 特別の教科 道徳「第２章道徳教育の目標」「各教科における道徳教育」においては、道徳教育推進上の配慮事項として、道徳科と保健体育科の関係性では、体育分野における様々な経験を通して、教科横断的に道徳性を養う必要があると解説されている。

これらのことから、心と体を一体としながら運動の経験を通して学習する保健体育科の授業では、体育と道徳性の関係が強くなると考えられる。しかし、保健体育の授業をすれば自然と道徳性が身に付くというものではないと考える。保健体育科の授業では，運動の技能を習得させることが中心的な課題になるが、体育と道徳の関連性や道徳性を意識した授業を実践することは、生徒の道徳性の育成の視点から意義深いと考えた。そこで行った実践を紹介する。

【実践Ａ】 **３年　国際理解・国際貢献とリンクした体育理論の授業**

本単元は、国際的なスポーツ大会などが、世界中の人々にスポーツの持つ教育的な意義や倫理的価値を伝え、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解できるようにすることを目的としている。発達し続ける様々なメディアが全世界に配信している、国籍や性別を超えた人々の交流や、卓越した技能、困難や障害を乗り越えた人々の姿などは、生徒達にスポーツが「人生を豊かにする」という文化的側面を内包していることを学ばせるのに格好の題材だと考えられる。

しかし、スポーツに対する興味や関心、知識には生徒間でも温度差があり、文字中心の学習では学習目標にたどり着きづらいと考えた。そこで、下に示すような国際的スポーツ競技会における名場面の写真にある魅力を見つけ、それをグループ内や学級内で話し合い、共有することで学習目標である国際的なスポーツ競技会の意義や魅力にたどり着けるのではないかと考えた。

学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
1　国際的なスポーツ大会に関する導入クイズを考える。	・　オリンピックはサッカーワールドカップよりもたくさんの人が見ているだろうな。	・　クイズの補足説明として、オリンピックとワールドカップのテレビ視聴者数やオリンピック誕生の歴史について簡単に触れておく。
2　自分が選んだ国際的スポーツ競技会の写真の魅力や好きな点を文章化する。	・　世界中の人々がスポーツを通じて交流することが大きな魅力だ。 ・　極限を超えた人間の姿が魅力だな。	・　多様な視点を与えるため、教師が画像を使って例示する。 ・　生徒の発想を広げるために、発表の過程で出てきたキーワードを黒板に書き残す。
国際的なスポーツ競技会にはどんな魅力があるのだろう。		
3　各自の持ち寄った画像の魅力などを班内で発表しあい、班の代表作を選ぶ。	・　新しい視点からのスポーツの魅力が発見できたな。	**(主)選んだ画像の魅力の説明がスポーツの文化的側面と大きく関わることを伝える。**
4　各班の発表や黒板のキーワードから国際的なスポーツ競技会の魅力について自分の考えをまとめる。	・　ボランティアなどで「支えるスポーツ」という観点は今までになかったな。	・　スポーツの文化的側面を享受するのにメディアが大きな働きをしていることに言及する。
5　ワークシートに考えを記入して本時の振り返りを行う。		・　「学んだことを生かして自分はどのようにスポーツと関わっていきたいか」という観点でワークシートに自分の意見を書き本時の内容をまとめる。

【生徒各自にロイロノートで配布した写真の一例】

【授業を終えた生徒の学びや感想】

◎これまでの話し合いを参考に「・・・」の中に入る言葉を想像してみよう。

黄色の・・・	青の・・・	白の・・・
こえる	つなぐ	支える

☆国際的なスポーツ競技会の魅力とは何だろうか。今までの話し合いや学んだことをもとに、自分の考えを整理しよう。

・人種や国、障がいなどの大きな壁をこえられること。
・お互いをたたえ合えること

●この授業の振り返り

「今日の授業からあなたはどのようにスポーツと関わっていきたいですか。または、国際的なスポーツがあなたの心のどのような所を刺してくれそうですか。」

今日の授業で国際的なスポーツは、人と人の間に起きたドラマのようなものを、たたえ合うことも魅力だと分かった。今までオリンピックやパラリンピックなどをあまり観ることはなかったけど、もっと興味を持ちたいと思った。

◎これまでの話し合いを参考に「・・・」の中に入る言葉を想像してみよう。

黄色の・・・	青の・・・	白の・・・
こえる	つなぐ	助ける、支える

☆国際的なスポーツ競技会の魅力とは何だろうか。今までの話し合いや学んだことをもとに、自分の考えを整理しよう。

国籍、人種、障害などを関係なく、今までそれぞれその人たちが、してきた努力をたたえあう場が、スポーツというものだと思った。

●この授業の振り返り

「今日の授業からあなたはどのようにスポーツと関わっていきたいですか。または、国際的なスポーツがあなたの心のどのような所を刺してくれそうですか。」

今日の授業をうけて、僕はスポーツに対するよりよい価値観を見つけることができた。国際的なスポーツでは、自分の悪い固定概念を、なくさせてくれた。

◎これまでの話し合いを参考に「・・・」の中に入る言葉を想像してみよう。

黄色の・・・	青の・・・	白の・・・
乗り越える	ふれあう	支える

☆国際的なスポーツ競技会の魅力とは何だろうか。今までの話し合いや学んだことをもとに、自分の考えを整理しよう。

勝ち負けがはっきりしない。もちろん大事だが、それ以上に大きな絆が生まれる。「仲間」という大きなものがあるから。勝負が終わっても、お互いの仲間になり、同じ地球に住む人

●この授業の振り返り

「今日の授業からあなたはどのようにスポーツと関わっていきたいですか。または、国際的なスポーツがあなたの心のどのような所を刺してくれそうですか。」

スポーツとは、仲間がいなければ成り立たず、仲間がいなければ成長しない、ということはないと思った。その仲間を大切に、人種や国籍も関係なくスポーツをしたい。平和の象徴だと思った。

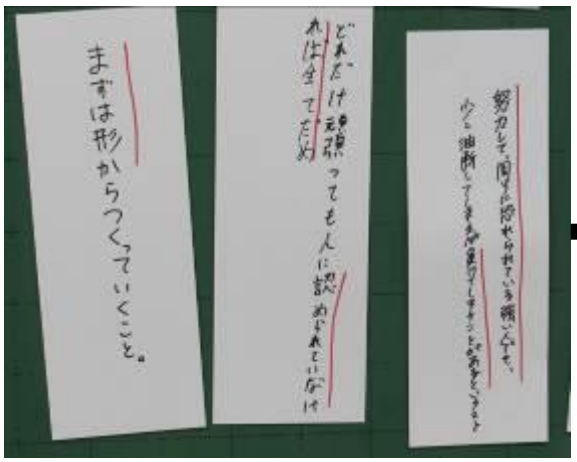
上記のように、多くの生徒が人種や国籍、性別、障害の有無などこれまでに「壁」とされてきたものをスポーツを通じて超えることができると実感できた。また、学習に写真を用いたことで意欲や関心に幅のある生徒たちが、スポーツの果たす役割についての理解を深めることができた。

【実践B】　**３年　国語科「形」菊池寛著　道徳科との関連　A-⑶自主、自律、誠実・責任**

本単元は、国語科の学習指導要領（3）我が国の言語文化に関する事項「オ　自分の生き方や社会との関わりを支える読書の意義と効用について理解すること」及び「C読むこと」(1)「イ　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」「エ　文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」に基づいて設定した。扱った題材『形』は、教科書の３ページほどで終わる短編であるが山場の場面で終わる構成や表現の面で多くの魅力をもち、以前から多くの教科書に所収されている不変の作品である。

「形」＝「外見」の効用を表面化させた内容で、授業においては「形（外見、評判）」と「中身（心、内面）」との関係を捉えたり、身の回りにある「形」について考えさせたりすることができる。国語科の授業として作者が読者に伝えたいこと＝主題を読みとる中で、「内面は大事だと理解しながらも、外見のよさを追い求める」人間の矛盾を抱えた生き方へ考えを深め、自己を見つめる活動を行いたいと考え実践した。

学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
中心発問：私達は自分の「形」とどう向き合うべきか。		
1　個人が考えた主題の短冊カードを黒板に貼る。 2　作者が伝えたかったことは何か主題を考える。 （1）個人で考え、ロイロノートに意見をまとめる。 （2）班で意見を交流する。 （3）全体の意見を共有し個人でまとめ直す。	・　実力も大事だが、形（外見）の大切さも忘れてはいけない。 ・　周囲の自分に対する意見がどのようなものか過信してはいけない。 ・　人は中身よりも外見を重視して他人を判断するものである。	**（主）ロイロノートにまとめる形式を統一し、文章中の言葉を使ってまとめた内容について発表する。** **（主）班の意見・全体の意見を基に自分の意見を見直させる。**
3　２つのアンケート結果から、人間の矛盾を抱えた生き方について実感を持つ。	・　入試では内面をしっかり見て欲しいけど、外見が重視される時代だよな。 ・　部活の試合でユニフォームを見ただけで強そうだと感じたことがあるな。	・　事前にとったアンケート結果を紹介する。
4　ワークシートに、考えた主題から、自分は自分の「形」とどのように向き合いたいかをまとめる。	・　努力は外見には表れないことがある。外見にも注意をはらえる人間でいたい。	**（道）自分の体験や知識をもとに、「形」が表すものや仲間の意見に共感・受容の姿勢が見える生徒を称賛する。**



【生徒が個人で考えた作品の主題】

- 他人にとっての第一印象は形（見た目）だから、実力は関係ないということ。
- 他人からの評価で自分の実力を過信しすぎることは、油断につながり後悔するということ。
- 相手からのイメージで勘違いして浮かれず、努力を続けることが大事だということ。
- 人間は他人からのイメージの積み重ねでできているということ。
- 形の方が、人格や実力よりも他人への影響が強いということ。

【意見を交流し班でまとめた作品の主題】

主題について考えさせる活動の際は、プロットと短冊カードを示した。最終的に作品の解釈を「自分たちにとっての『形』とは何か」として振り返らせる活動の際には、考えた理由も添えて意見を発表できるように取組内容に段階を付けることで、生徒に力の伸び具合を実感させた。

（生徒の振り返りから）

- 必ずしも中身（実力）と形（外見）が同じになるわけではないと分かった。自分も有名な会社やスポーツ選手のように、形と中身が上手く組み合わさった存在になりたいと思った。
- SNS でもそうだが、知名度の高い人が良いことをすればすぐに広まる。しかし、内面の悪さ（「形」でいうと槍中村の油断）が出てしまうと一気に人気がなくなる。物語の中で、槍中村が戦でやられてしまったことと同じだと考えた。内面も外見もよく、常に向上心を持って生活したいと思った。
- 「形」は自分達に身近な内容だと思った。入試に向けて面接練習が始まった今、内面もそうだが外見の指導を受けることが多い。（髪型や制服の着こなしなど）「形」は外見でもあり、内面でもある。これを踏まえてこれからの練習を大切にしていきたいと思う。

仲間の意見を基に再度自分の意見を形成することで、作品の主題を的確に理解し、自己の事へと円滑に置き換えて振り返る活動に移れていたように感じる。また、国語科の授業として、先に教科書の言葉を根拠にして意見を構成させることで、自らの意見に自信を持たせるとともに、意見の広がりすぎを防ぎ、考える内容を焦点化できた。

イ　中心発問の改善（生徒の実態に即し自己内対話へと導く発問と問い返し）

考え、議論する道徳の授業実践のためには、「互いに聴き合い、自他の考えをつなげる」、「自己内対話し、自分の意見を確実に持つ」といった視点での中心発問の吟味が必要である。

考え、議論する道徳とは、単に活発な議論を目的とするのではなく、自己の内面的成長を図る内容になっているかが重要であると考えた。以下に、研究授業に向け生徒の実態に即し、自己内対話ができるよう改善を行った実践と、問い返しに重きをおいた実践について紹介する。

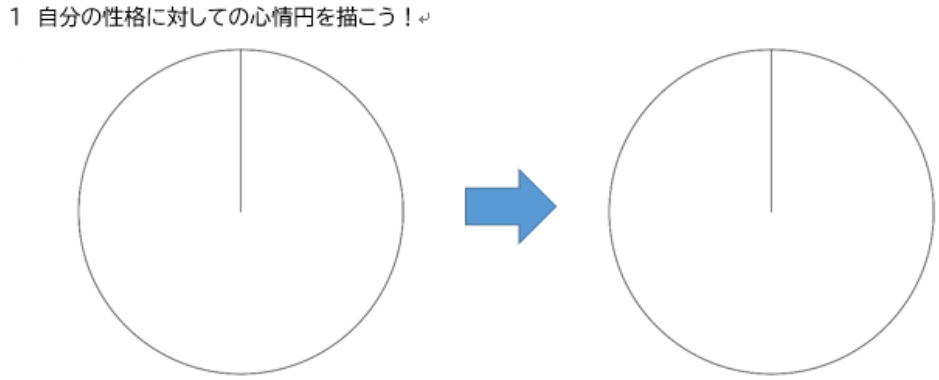
【実践 C】　**1年　教材名「自分の性格が大嫌い！」A－(3)　自分の個性を伸ばす**

本教材は作者の「おこりっぽい」短所の捉え方や、人間が持っている人間が持っている「短所と長所」は裏表であり、自分の「短所と長所」の両方を公平に見つめることで人生がより楽しくなるという主張から、

自分との付き合い方を考える習慣を身につける内容である。リーダー的存在となる生徒は少ないが、逆に誰かに頼るのではなく、全員で協力して物事に向きあえている。しかし中には、自己表現が苦手で、周りを見て行動することはできるが、主体性が低く、自分の長所に対して自信を持って話すことはできないという生徒の実態から、自身の長所に対して深く考えることができるため、学級に必要な考え方としてこの題材を選んだ。

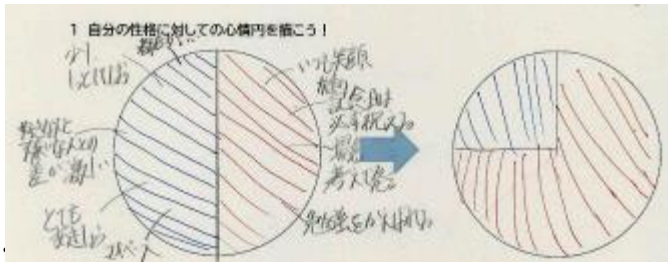
（改善したワークシート）

心情円を２つ並べて描くことで、割合の変化を見やすくしている。また、短所のリフレーミングをするときに、自分の短所とその言い換えを書き込む部分を作ることで、自己肯定感を高めることができるようにした。



授業者による１回目の授業のあと、学年団やプロジェクトの枠を越えた教師が集まり、指導案検討会を行った。その中で課題として「振り返りが充分ではないため、自分自身へ落とし込むところがない。」ということがあげられた。授業の初めに心情円に自分自身の性格の好きな割合と嫌いな割合をかき込ませたが、授業終わりにはどう変化したかを書く活動がなかった点と、本文を読むタイミングが振り返りをする前だったため、筆者の考えに引っ張られ、自分の意見を考えることができなかった点、また、自分の短所に対するリフレーミングがないため、自分に落とし込むことができていない点の３つが原因であった。

改善案として、心情円を授業開始と授業終わりにそれぞれ描かせることで、自分に対しての好きの割合や嫌いの割合が変化している様子を残すというものと、心情円のまわりに自分の詳しい短所長所を書かせることで、自分の性格にも裏の面と表の面があることに気付かせるものが採用された。



自分は短所だと考えていたことも言い換えることで長所になることが分かり、自分の性格の好きな部分が増えた。自分の性格がもっと好きになるように言い換えを考えていきたい。

・短所　「とても飽き性」

　→好きなものが多い・熱中しすぎない

実際の授業では、一般的にいい性格とよくない性格について考えた。その後、教材を読むことで筆者の考え方を学び、でてきた性格についての言い換えを行った。それを基に班活動で、自分の短所についてのリフレーミングを班員にしてもらう活動を設けた。このときリフレーミングが難しい短所が出た際は、その人の他のいいところを見つけ伝えるように指示したことで、どの班も活発に話し合い活動をすることができていた。短所であった部分も見方を変えることでいい面として捉えることができるこ

とが分かったり、自分が気付いていない長所を知ることができたりすることで、自己肯定感を高めることができた。その活動のあと、自分に落とし込む活動として心情円をもう一度かき、自分のことを認められるようになったか考える時間をとった。生徒が自己内対話をして考えを深めるためには、一般論ではなく、自分たちの実体験に基づいたことを考えることはもちろん、生徒同士での話し合いの中で、それぞれの意見を踏まえた上で授業前と授業後の変化を実感させることが必要である。

【実践D】　**２年　教材名「注文をまちがえる料理店」B－(9)　相互理解、寛容**

認知症を抱えた方達が働く、「間違いを受け入れ、一緒に楽しむ」をコンセプトにしたお店の活動を知り、認知症への理解を深めるだけでなくの個性や立場を尊重する寛容の精神を育むきっかけとなる教材である。

教材を読んだり、動画を視聴したりしながら、料理店の発案者の考え方やものの見方に触れ、個性や立場を尊重し広い心を持つということはどういうことかについて考えた。

学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
1　認知症についての知識を共通理解する。 2　本文から「このお店で注文と違う料理が提供されたときどうするのか」考え、名前磁石をボードに貼る。 3　２の結果と、事前アンケート②の結果をみて、なぜ結果が異なるのか理由を考える。	・　忘れてしまう病気で、高齢者に多い。 ・　そのまま食べると考える人が多い。 ・　このお店だったら、そのまま食べる。 ・　認知症だから。 ・　わざとではないから仕方がない。 ・　認知症だからいいのかな？ ・　自分なら困った顔になるが、この店の人は笑っている。	・　年齢は関係がないこと、見た目ではわからないことを共通理解させる。 ・　考えに自信をもたせるため、よく書けている生徒のワークシートにシールを貼る。 ・　間違いを指摘するかどうかの基準は認知症であるのかと問いかけることで、思考の幅を広げる。 ・　レストランで間違われた時、自分ならどんな表情になるのか問いかける。
なぜ、このお店にいる人はみんな笑顔になっていたのだろう。		
4　お店の開店前の気持ちを想像し、考えたことをペアで話し合う。（店員、客それぞれの気持ち） 5　お店の当日の様子を動画で視聴し、閉店後の店員、客それぞれの気持ちを想像する。	・　店員は、「間違えて怒られるかもしれない。」と不安。 ・　客は、「どんな接客をしてくれるのだろう。」と期待。 ・　店員は、「間違えても笑顔で認めてくれた。」と安心。 ・　客は、「苦手なことにも一生懸命頑張っていた。」と感動。	・　話し合いによって、新たに得たことや、感じたこと、変わった考えなどをワークシートに書き込むよう伝える。 **（主）生徒の気持ちを揺さぶる発問をすることで、一つの考えに多面的な視点を持たせ、話し合い活動の充実を図る。**

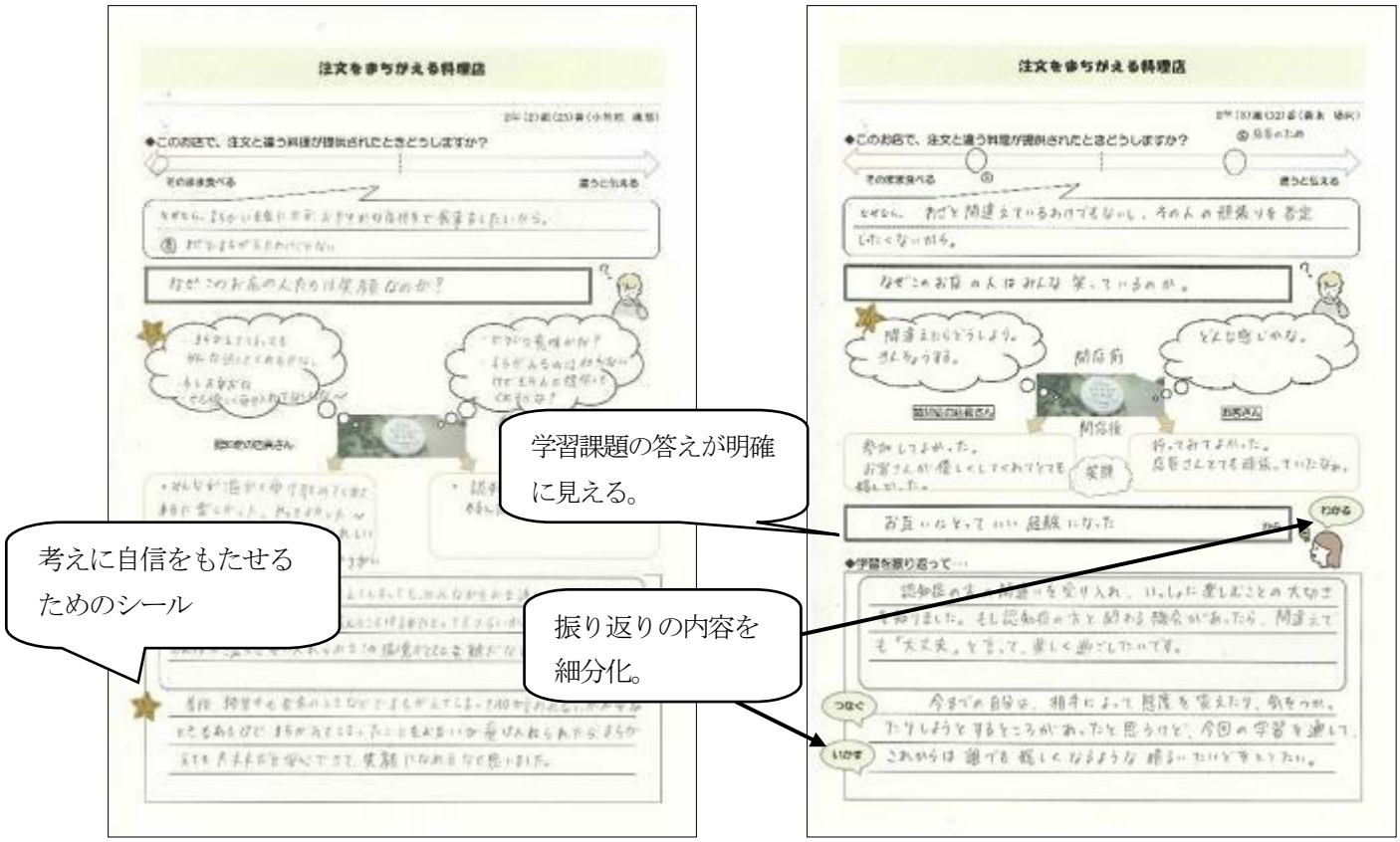
6　学習課題について考え、話し合う。（班活動） 7　学校生活での同じような場面を設定し、役割演技を行う。 8　初読の感想と比べながら本時を振り返る。	・　お互いの姿によって笑顔になった。 ・　同じ様な経験をしたことがある。 ・　最初は間違いを認めたいと思っていたけれど、本時を通して、まずは相手を知ることが大切だとわかった。 ・　受け入れるかどうかは時と場合によるかもしれない。	・　より深い振り返り活動になるように、初読の感想と授業を終えての感想を読み比べることができるワークシートを用意する。 ・　本当に何でも受け入れるのか問いかけ、寛容とは何なのか疑問をもたせる。

○　単元の目標

「注文をまちがえる料理店」では、なぜお客さんが笑って間違いを受け入れていたのか考えることで、それぞれに個性やいろいろなものの見方があることに気付き、寛容の心を持って他者と関わろうとすることができる。

○　発問・学習活動の改善の過程

指導内容	改善点	生徒の変容
・　動画の笑顔に着目するとよい。	・　間違ったものが出てきて自分なら笑顔になれるのかという発言をし、実際にどんな顔になるのか表情を作らせる。	・　**中心発問が「なぜ間違いを受け入れるのだろう」から「なぜこのお店の人はみんな笑顔なのだろう」に変わった。**
・　働いている人、お客さんそれぞれの立場に立たせる。	・　お店の開店前の店員の立場、客の立場で気持ちを想像する。その後、実際の料理店の様子を映像で見る。最後に閉店後のそれぞれの気持ちを想像する。	・　それぞれが不安で緊張しているところから、お店を通して明るく元気な気持ちに変化することが分かり、「なぜこのお店の人は笑顔なのか。」という中心発問への思考の手助けとなった。
・　間違いを許すことが優しさなのか、寛容の意味を再度確認する必要がある。	・　生徒の発達段階を考慮して、本時では互いを認め合うことの大切さを学びのゴールとする。今後、発達状況をみて、全て受け入れることが寛容な心なのか話し合う活動を行う。	・　振り返りに「どんなことでも受け入れたい。」と書いていた生徒が、仲間の発言を受けて「受け入れるにも限度がある。」と書き直していた。これからの成長へと繋がる思考になった。
・　日常に返す場面設定が必要。	・　注文を間違えられたときの表情を生徒に再現させる。 ・　日常での場面（係の仕事のミス、部活動でのミス）を提示することで、自分の経験と重ね合わせる。	・　振り返り活動で自分の経験を見直すことができた。



ウ　振り返りの充実（内省的思考へと導く３観点の提示、共有できる場の設定）

道徳が特別の教科となり、評価を記述で行うにあたって、授業で使用したワークシートにある生徒自身の「振り返り」を参考にしている。生徒が、その授業で何を理解したかを自分の言葉で書くことで、「いろいろな立場から考えようとする姿」や「自分自身との関わりの中で考えようとする姿」などを見いだして評価することにつながっている。今年度は、生徒理解や学習指導要領の趣旨理解を深めることはもちろん、継続的に生徒のよさや成長の様子を適切に見取っていくことをねらいとして、振り返りに３つの視点を設けた。「わかる」・「つなぐ」・「生かす」の３観点である。

まず、道徳科における「わかる」とは、私たち人間が、道徳的行動を行う際の根拠となる、道徳的諸価値についての理解のことである。例えば、学校のトイレのスリッパをそろえるという行動ができたとき、その行動の根底には、「公共の場所にあるものは使う人みんなが大事にするべきだ」という認識がある。この認識があるからこそ、道徳的行動が実践できる。『なぜ○○することが大切なのか』の『なぜ』の部分への理解が「わかる」である。

次に、道徳科における「つなぐ」とは、本時の学びを通して、自己をどのように見つめるかということである。道徳科の学びは、学習指導要領における指導事項にある、A「自分自身」、B「人(他者)」、C「集団や社会」、D「生命や自然、崇高なもの」との関わりからなっている。つまり、道徳科におけるよりよく生きるとは、それらの対象と自分の関係をどう作っていくかということである。授業の中で「わかった」＝「理解したこと」が今の自分にどう関係しているか、今ま

道徳科における「わかる」

道徳的行動を行う裏付けとなる道徳的諸価値についての理解。

（例）
学校のトイレではスリッパをそろえる（道徳的行動）
↑
公共の場所はみんなで整える（道徳的価値）

道徳科における「つなぐ」

本時の学びを通して、自己をどのように見つめるか。
道徳科の学びは、A「自分自身」、B「人(他者)」、C「集団や社会」、D「生命や自然、崇高なもの」との関わりからなっている。
道徳科におけるよりよく生きるとは、**それらの対象と自分の関係をどう作っていくかと**いうこと。授業の中で**「わかった」**ことが**自分にどう関係しているか。**

道徳科における「生かす」

本時の学びから、これからの人間としての生き方についての考えを深める。
「わかる」、「つなぐ」をふまえて、これからどう行動（発言）していきたいか。
「わかる」、「つなぐ」をふまえて、生活を**よりよい**ものにしようと努力したり、工夫したりする。

参考文献：石丸憲一　著
ルーブリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング

での自分はどうだったのかとつなげて考えるのが「つなぐ」である。そして、道徳科における「生かす」とは、「わかる」、「つなぐ」をふまえて、自分はこれからどう行動（発言）していきたいかということである。ここでは、「わかる」、「つなぐ」をふまえて、自分自身の生き方をよりよいものにしようと努力したり、工夫したりする生徒の姿が見えてくる。

③　家庭・地域との連携・協力

ア　道徳通信の発行（家庭や地域への情報発信：月１回程度）

本校では、平成３０年度より道徳通信「くすのき」を発行している。タイトルの「くすのき」は、中庭から全クラスを見渡す西中のシンボルである。地面に力強く根を張り、どっしりとした幹でそびえ立つ楠の木のように、様々な経験を自分が成長する機会と捉え、栄養分をしっかりと吸い上げ、豊かな心を育ててほしいと願い、このタイトルをつけた。

通信は、保護者や学校評議員はもちろん、校区内の公民館にも配布しており、そこからさらに地域の方々に配布していただくようにしている。道徳通信の作成は、主に道徳主任が行っているが、担当学年以外の授業の内容や、生徒の様子や振り返りを把握することは難しく、改善が必要であった。昨年度より、授業の内容に関する部分を各学年の連携プロジェクトの教師で作成することで、無理なく通信が発行できるように工夫している。

道徳通信　**くすのき**　令和３年５月１３日(金)　第１号

普通寺市立西中学校　道徳担当

今年度も道徳通信「くすのき」がスタートします。

「くすのき」では、日頃の道徳の授業の様子を中心に、西中学校で行っている道徳教育についてお伝えしたいと思います。
タイトルの「くすのき」は、中庭から全クラスを見渡す西中のシンボルです。地面に力強く根を張って、どっしりとした幹でそびえ立つ楠の木のように、様々な経験を自分が成長する機会と捉え、栄養分をしっかり吸い上げ、豊かな心を育ててほしいと願っています。

中学校の道徳科について　～ ①中学校道徳の内容 ～

道徳は、「特別の教科 道徳」（道徳科）として教科化されました。道徳教育は、各教科の授業や部活動など学校の教育活動全体を通じて行うものです。道徳が「特別の教科」となっているのは、あらゆる学校の教育活動の中で、道徳性を養う中心となる教科だからです。
道徳科の内容には、全学年次の４つの視点があります。教科書にある資料を中心にして、教師や生徒同士など、他者との交流・議論を積極的に行って、まんべんなく学習するように計画しています。

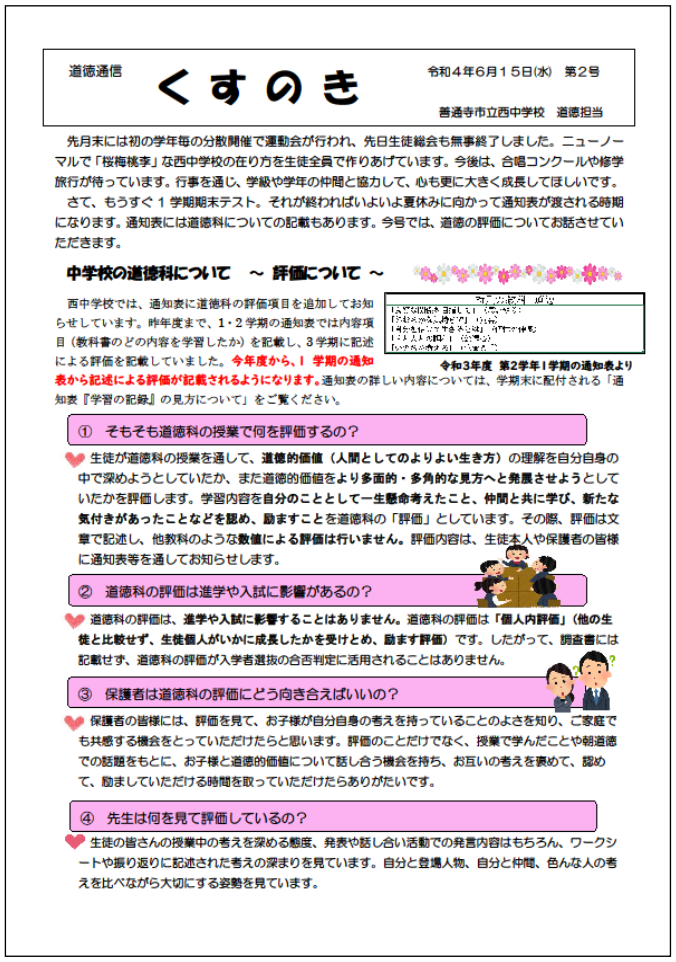
A. 主として自分自身に関わること（節度、節制、強い意志、自主自律、自由と責任、向上心など）
B. 主として人との関わりに関すること（礼儀、思いやり、感謝、友情、信頼など）
C. 主として集団や社会との関わりに関すること（遵法精神、公徳心、勤労、家族愛、郷土愛など）
D. 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること（生命の尊さ、畏敬の念、生きる喜びなど）

これらの内容は、学校だけでなく、それぞれのご家庭でも大事にされているものと思います。今後も学校と家庭、そして地域で協力して意識を高めていけたらと思います。
評価に関しては、授業中の発言やワークシートの記述などを基に、心の成長を把握し、「記述式」の評価（他者との比較はせず、数値では表さない）を行っています。（次号以降で詳しく紹介します。）

中学校の道徳科について　～ ②君たちはどう生きるか ～

道徳の授業では何を考えるのか？それはズバリ、**「自分の生き方」**です。自分にとってよりよい生き方とは、どんな生き方なのか。その生き方をするために、自分が大切にしたい**「考え方」**、**「心の在り方」**とは何かを考え、仲間といっしょに自分自身を磨く時間が道徳の時間です。

生き方に正解はありません。人の数だけの生き方があります。たくさんの生き方がある中で、自分はどんな生き方を選びますか？
選ぶためには**たくさんの価値観や考え方**に触れることが必要です。今の自分にはない価値観や考え方に触れるために、授業の中では自分事としてたくさん考え、たくさん話し合いましょう。



道徳通信　**くすのき**　令和４年６月１５日(水)　第２号

普通寺市立西中学校　道徳担当

先月末には初の学年毎の分散開催で運動会が行われ、先日生徒総会も無事終了しました。ニューノーマルで「桜梅桃李」な西中学校の在り方を生徒全員で作りあげています。今後は、合唱コンクールや修学旅行が待っています。行事を通じ、学級や学年の仲間と協力して、心も更に大きく成長してほしいです。
さて、もうすぐ１学期期末テスト。それが終ればいよいよ夏休みに向かって通知表が渡される時期になります。通知表には道徳科についての記載もあります。今号では、道徳の評価についてお話させていただきます。

中学校の道徳科について　～ 評価について ～

西中学校では、通知表に道徳科の評価項目を追加してお知らせしています。昨年度まで、1・2学期の通知表では内容項目（教科書のどの内容を学習したか）を記載し、3学期に記述による評価を記載していました。**今年度から、1 学期の通知表から記述による評価が記載されるようになります。**通知表の詳しい内容については、学期末に配付される「通知表『学習の記録』の見方について」をご覧ください。

令和3年度　第2学年 1学期の通知表より

① そもそも道徳科の授業で何を評価するの？

生徒が道徳科の授業を通して、**道徳的価値（人間としてのよりよい生き方）**の理解を自分自身の中で深めようとしていたか、また道徳的価値を**より多面的・多角的な見方へと発展させようとしていたか**を評価します。学習内容を**自分のこととして一生懸命考えたこと、仲間と共に学び、新たな気付きがあったことなどを認め、励ますこと**を道徳科の「評価」としています。その際、評価は文章で記述し、他教科のような**数値による評価は行いません。**評価内容は、生徒本人や保護者の皆様に通知表等を通してお知らせします。

② 道徳科の評価は進学や入試に影響があるの？

道徳科の評価は、**進学や入試に影響することはありません。**道徳科の評価は**「個人内評価」（他の生徒と比較せず、生徒個人がいかに成長したかを受けとめ、励ます評価）**です。したがって、調査書には記載せず、道徳科の評価が入学者選抜の合否判定に活用されることはありません。

③ 保護者は道徳科の評価にどう向き合えばいいの？

保護者の皆様には、評価を見て、お子様が自分自身の考えを持っていることのよさを知り、ご家庭でも共感する機会をとっていただけたらと思います。評価のことだけでなく、授業で学んだことや朝道徳での話題をもとに、お子様と道徳的価値について話し合う機会を持ち、お互いの考えを褒めて、認めて、励ましていただける時間を取っていただけたらありがたいです。

④ 先生は何を見て評価しているの？

生徒の皆さんの授業中の考えを深める態度、発表や話し合い活動での発言内容はもちろん、ワークシートや振り返りに記述された考えの深まりを見ています。自分と登場人物、自分と仲間、色んな人の考えを比べながら大切にする姿勢を見ています。

１学期には生徒、保護者に向けて、道徳の評価についてお知らせしている。周知する内容は、「道徳には４つの考える視点があること」、「評価は数値ではなく、記述式であること」などである。また、記述式の評価については、授業中の発言やワークシートの記事をもとに評価していることを伝えている。

イ　地域とつながる道徳（地域とつながる新しいボランティアの確立・保護者参加型の授業の実施）

例年、毎年本校では、各界で活躍している方々を招き、講演を聴く機会を設けている。様々な分野の方々から話を聴くことを通して、物事を広い視野から多面的・多角的に考えたり、人としての生き方を考えたり、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てたりすることをねらいとしている。また、それぞれの講演は、保護者や地域の方々にも案内を出し、参加していただくことで家庭の中での道徳に関する共通の話題を提供していた。

生徒が様々な人の生き方に触れ、自分を見つめる機会が減ったことは残念であるが、２年生では本校OB航空自衛隊隊員の方を招聘し、話を聴くことができた。今後も進路学習や職業調べなど他の学習と連携するなど教科横断的な視点から、自分の将来や「よりより生き方」について考えられるような取組を行いたい。

また、地域とつながるために、地域を大切に思う心を育てる様々なボランティア活動を行っている。総本山善通寺の境内で、お遍路さんや観光客の方にお茶などをふるまう「お接待ボランティア」をはじめとし、市内の様々な施設や団体と協力し、多くの校外でのボランティア活動を行っている。今年度は学校の前にある公道の溝清掃と、校内の普段清掃しない場所の清掃ボランティアを、香川県の方言を使い「いでざらいボランティア」と名付けて実施した。校内外のボランティア活動を通じて、人と協力することや他者との関わりを大切にする心や、自分たちの学校や活動への誇り、郷土を大切に思ったり知ろうとしたりする心など、たくさんの心の成長に繋がっている。

【いでざらいボランティアに参加した生徒の感想】

- 初めてボランティア活動に取り組みました。最初は楽しくないと思っていたけれど、たくさん汚れを落とすことができて楽しくなりました。学校を使う人みんなに、いい気分で使えるようになってほしいという気持ちを込めて取り組みました。
- 少しの時間でもみんなで協力して、１つの作業に集中すればたくさんのゴミが集まって気持ちがよかったです。また、達成感がありました。学校のために、みんなのために活動できて本当にやってよかったなと思いました。
- ボランティアをして、普段この場所を掃除してくれている人の大変さが分かりました。また、人の役に立つことをするというのは、こんなに気持ちいいことなんだなと改めて思いました。これからは教室で見つけたゴミを捨てたり、困っている人に声をかけたり、自分にできるボランティアを頑張りたいです。

【正門前の道の溝の落ち葉拾い】

【中庭のタイルの苔削り】

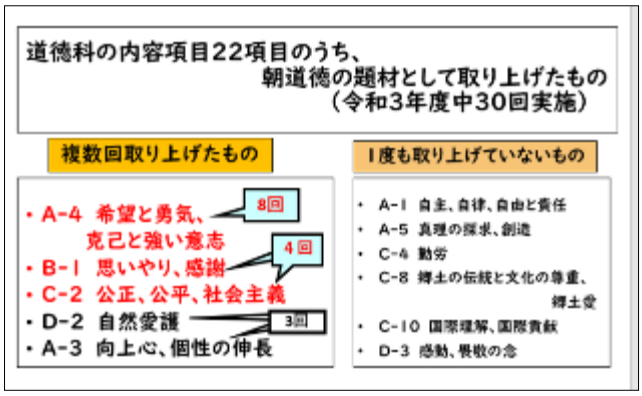
④　道徳に関する支持的風土づくり

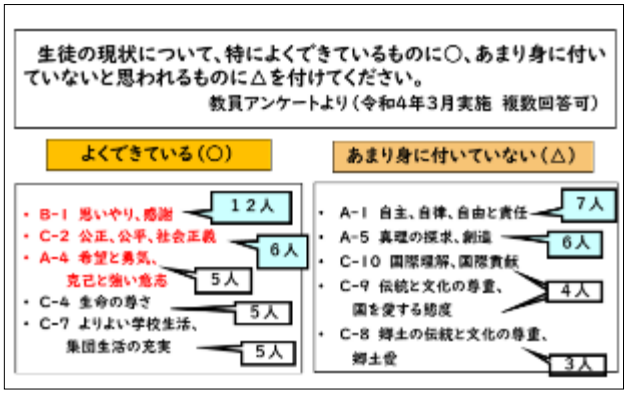
ア　生徒の実態に合った朝道徳の充実と共有環境の整備

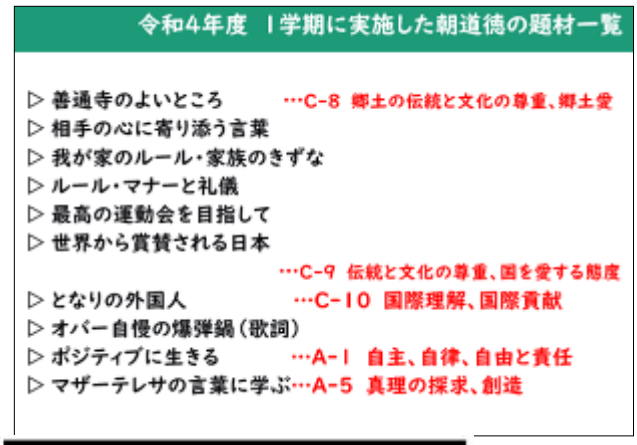
学校における道徳教育は、道徳の時間を要として、学校生活全体において行われるものとされている。本校では、日常生活の中で生徒の心を育むために、毎週月曜日の朝学活の時間を朝道徳「こころ」の時間として、様々な資料を紹介し、感想をワークシートに書くという取組を行っている。この活動も平成３０年度より継続して行っているが、令和３年度からICT機器も積極的に活用し、映像や音源なども使って資料内容の充実を図った。

数年間継続して行っている朝道徳の資料作成は、令和３年度より全教師でローテーションを組んで行っている。それには、資料で扱う内容項目が偏らないようにというねらいがあったが、実際には各教師のよさや特色が光った資料も多くあった一方、内容項目２２項目のうち一度も取り上げていない内容項目があったり、A「自分自身に関すること」を扱った内容に偏ったりしていた。加えて、令和３年度末に全教師にアンケートを行った結果、朝道徳の資料内容での取り扱いが少なかった価値項目こそが生徒に身に付いていないと感じられるという結果が出ている。

このことから、資料を作成する際にアンケート結果や今まで作成した資料の内容を考慮し、内容の焦点化を行うことで生徒の実態に即した朝道徳を行うことをねらいとした。右図は今年度に行った改善された朝道徳の題材一覧である。赤字で示したものが昨年度取り上げていなかった内容項目の題材である。







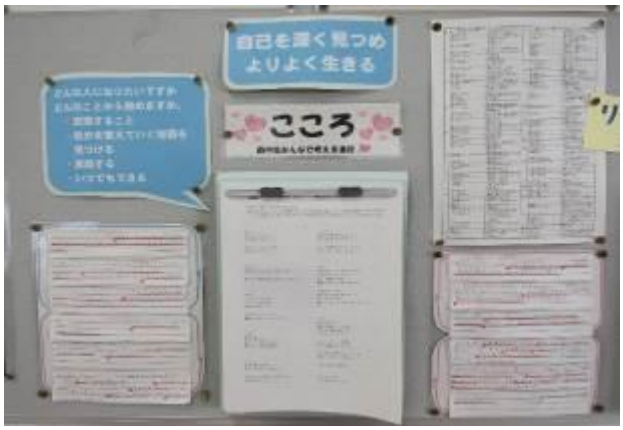
【いいところを見つけよう～「寛容ラップ」のCMから～】

イ　道徳的価値を深める掲示の作成

○　朝道徳の掲示

毎週月曜日の朝の時間に全校で取り組んでいる朝道徳「こころ」の感想は、同学年の生徒の意見だけでなく、異学年の生徒も含めた多くの意見に触れてほしいと考え、全校生が通る校内の廊下に朝道徳コーナーを作って掲示している。１日の中で何度か通る廊下で、生徒が自らの在り方や生き方を他者の考えと比較しながら、見つめ直すことができるような環境作りになっている。

【南校舎２階　１年団の朝道徳の掲示】



【北校舎２階　２年団の朝道徳の掲示】

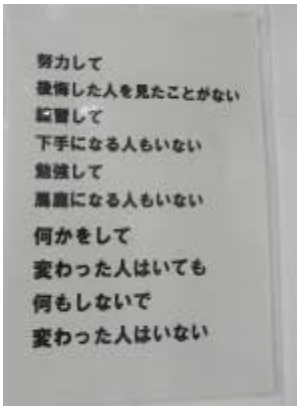
【北校舎１階（玄関）　３年団・全校生の朝道徳の掲示】

～異学年の意見に触れることができる～

○　生徒を励まし、心を温かくする掲示の工夫

本校では、校内の至るところに、元気になったり、優しい気持ちになれたりするような言葉やイラストを掲示している。悩んだり、立ち止まったりしたときに、そっと背中を押してくれるような言葉を並べた「心のアンテナコーナー」である。

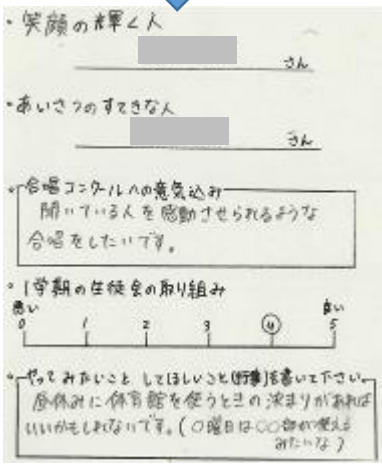
【心のアンテナコーナー】



【トイレ内の掲示】

玄関付近の廊下には、仲間と協力したり、絆を深めたりした様々な行事や生活、学びを振り返る場として、多くの写真を掲示している。また、新年に向けての抱負や、なりたい自分の姿をクリスマスツリーの形で掲示したものは生徒会役員と連携して制作した。自分や友達が作った掲示物は、より温かみや安心感を与えるものとなっているようだ。生徒が自らの在り方、生き方を見つめ直すことができるような、特に「いのち」や「人権」に関する内容、心が落ち込んでいる生徒を励ます内容など、生徒の心に沁みる掲示の価値は大きなものがある。

【生徒会が作成した大パネル掲示】



【ボランティア活動のようすの掲示】

４　研究の成果と課題

道徳に関して継続して研究を推進してきたことで、次の成果が得られたと考える。教員の道徳教育に対する意識の高まりと、効率的な道徳教育の運営の構築である。プロジェクト会や指導案検討会、研究大会の研修内容の周知、研究授業、朝道徳などにより、担任はもちろん、担任以外の教員も、道徳教育に関して様々なアンテナを張り、考え、アイデアを出し合う体制ができた。誰か一人やプロジェクトだけでなく、校内の全員で道徳教育を推進するという意識を持つことができたことは、大きな成果だと感じている。

課題としては、新型コロナウイルスの影響もあり、家庭や地域とのつながる機会が減少したことが上げられる。道徳通信の発行頻度を高めたり、外部へ発信する機会を模索したりし、保護者や地域の方とともに道徳について考える時間を確保したい。

また、生徒の実態として道徳の授業改善や朝道徳の活性化により、道徳的判断力や自己のよさに気付く心の醸成は成果がみられるが、道徳的行動を実践できるまでの自信は育っていないことがまだまだ課題としてあげられる。生徒が得た各教育活動での道徳的体験を道徳の時間で再度、補充や深化させて、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することが今後の課題である。

今年度力を入れて行ってきた各教科でも道徳性を高める実践については、まずはしっかり各教科の教材研究を行い、教師が生徒に何を考えさせるかを明確にしておくことが根幹であると感じた。各教科の指導が確かなものであるからこそ、生徒が学習内容を自分事として、自己や身の回りの生活に置き換えて考える事ができるようになる。各教科の授業に加えて、道徳性を養う授業を行うことは授業時数の確保もあり、難しい部分がまだあるが、そこまで生徒に思考させることを考えて、教科と道徳科のつながりを大切にしていきたい。